

緑化だより

No.165 令和2年10月号



キンモクセイ

- 季節の花(イネ)
- 昆虫の話
(樹上の異邦人・アオマツムシ)
- 小さな世界こけ(コケが観察できる場所)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ryokka 緑化センターの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

イネ

「我が蒔(ま)ける 早稲田(わさだ)の穂立(ほたち)作りたる

かづらぞ見つつ 恩(しの)はせ我(わ)が背(せ)」

坂上大嬢(さかのうえだいじょう) 万葉集 巻8-1624

これを訳しますと

(私が種子を蒔いて実った 早稲(わせ)の田から収穫した稲穂で作った かづら(髪飾)を
いつまでもよく見て 私のことを忘れないで思い出してくださいね)

この歌は奈良時代(739年)9月の秋に坂上大嬢が愛しい大伴家持に贈った歌です。坂上大嬢は大伴家持と従妹であり後に正妻となります。

「かづら」は頭髮に差したり輪を作って頭に巻いたりする装身具で、今のお守りと同じように神聖なものでした。当時、神事や宴の際には、男女が頭髮に新鮮な植物で作った髪飾りを付けて参席する習わしがありました。秋には、皇室の宮中祭祀の一つとして「新嘗祭(にいなめさい)」という神事が行われます。天皇がその年に収穫された新穀などを神に供えて感謝の奉告をします。これらは神からの賜りものとして天皇が自らも食する儀式です。毎年11月23日に行われ、同じ日には全国の神社でも行われます。

イネ(稲)はイネ科イネ属の一年草です。原産地はインド、中国、ビルマ、タイともいわれていますがはっきりとした原産地は不明です。稲作は日本の縄文時代の晩期から弥生時代に中国大陸から伝わり、2~3世紀の邪馬台国も稲作で潤っていました。縄文時代晩期(2500年前)の最も古い佐賀県唐津市の菜畑遺跡(なばたけいせき)からも発掘されているように、昔から米づくりは日本の気候風土に合い、次第に定着していきました。



井仁の棚田(安芸太田町)

果実は米(こめ)で澱粉を含み、脂肪やタンパク質もあります。糠(ぬか)として捨てられる胚芽にはビタミンなどの栄養素が含まれています。ほとんどが飯米として消費されますが、酒、餅、味噌、菓子などの原料としても使われます。

イネはトウモロコシ、コムギとともに世界三大穀物の一つで日本人の主食です。



イネの穂

秋の田の黄金色に輝く美しい稲穂は、日本の里山には欠かせない原風景です。(上村)

昆虫の話

樹上の異邦人・アオマツムシ

秋の夜、野山は様々な鳴く虫の声で彩られます。一方都市部では、生垣や街路樹、電柱等から「リーー、リーー」という音が大音量で聞こえてきます。その声の正体がアオマツムシです。アオマツムシは体長2.5cm程のマツムシの仲間で、名前通りの緑色をした翅と、角張ったコオロギの

ような独特の体型が特徴です。呉娑々宇山周辺では、公園の緑地やふもとの住宅街など、人の手が入った環境で見られ、9月から11月にかけてその声を聴くことができます。

アオマツムシは100年ほど前に東南アジアからやってきた外来種です。明治維新の頃、貨物に紛れ込んだものが船舶で運ばれ、日本へ侵入したと考えられています。通常、暖かい地域の昆虫が日本に定着することは難しいのですが、アオマツムシは巧みに環境へ適応しました。その原因の一つが人間の植栽した街路樹や庭木との相性が良かったことです。一般に街路樹や庭木には常緑樹が用いられますが、これらは本来の生息地においてアオマツムシが利用する樹木と同じでした。また、剪定を繰り返して密になった枝葉や、熱のこもりやすい人工的な構造物、天敵の少ない攪乱された環境がその増殖を後押ししました。さらに、張り巡らされた道路と目まぐるしい物流がその移動に拍車をかけ、現在も徐々にその分布を拡大しています。



アオマツムシ

大繁栄したアオマツムシの合唱は、都市部における秋の風物詩になりつつあります。その単調な鳴き声は他の虫の鳴き声をかき消し、さらには電気系統の故障と誤認されるほどです。秋の夜、街路樹の上から響く大きな鳴き声を耳にしたら、異国からやってきた奇妙な虫を思い出してみてください。(市森林公園 こんちゅう館 逸見)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(9)

今回は出会いの広場を出て、ツバキ園に移動しましょう。

ツバキ園男子トイレ横を谷に向かって下りて行くと、石積みの上にセン類のトサカホウオウゴケが見られます。

緑化センターでは、仲間のホウオウゴケ、ホソホウオウゴケ、コホウオウゴケも確認されています。

ホウオウゴケの仲間の特徴は、茎から左右に平たく葉がついていることで、その葉のつき方を鳳凰の尻羽根にたとえたのが名前の由来です。

トサカホウオウゴケが好む生育場所は、腐植質の土壌や石灰質土壌やコンクリート側溝などです。茎の長さ1~3cm、幅約3~5mm程度で肉眼でも確認できます。葉の上部には不規則な重鋸歯が目立ち、これを鶏の鶏冠(とさか)に見立てて名付けられました。乾燥すると葉は外側に巻き込みます。9月下旬からでき始めた胞子体は、10月中旬になると鶴の首のように立ち上がり、蒴は先から色づき始めます。2月頃、充実すると帽子が外れ胞子を放出します。役目が済んでも蒴は茶褐色のまましばらく残ります。(山根)



トサカホウオウゴケ



トサカホウオウゴケの胞子体

研修会のご案内

- | | |
|---|--|
| ○ 10月4日(日)『秋のきのこ教室』
園内で採集したきのこの名前や食毒を学ぼう
※自由参加、無料、採集用カゴ持参 | 10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師:きのこアドバイザー
川上 嘉章 |
| ○ 10月14日(水)『10月の自然探勝』
“人と木の秘密”をテーマに植物観察をします
※自由参加、無料、ルーペ持参、雨天中止 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:森林インストラクター
長井 稔 |
| ○ 10月16日(金)『果樹の手入れ(秋)』
果樹の秋の手入れを学ぼう
※自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:元県立農業技術センター果樹研究部
三原分室室長 石井 實 |
| ○ 10月18日(日)『どんぐり教室』
秋の気配を探そう
※要予約(キャンセル待ち)、無料 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:日本シェアリングネイチャー協会
トレーナー 住吉 和子 |
| ○ 10月24日(土)『秋のバードウォッチング』

※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:日本鳥類保護連盟会員
吉見 良一 |
| ○ 10月25日(日)『つづらふじでカゴ作り』
曲げても折れないツづらふじでカゴを作ろう
※要予約(先着15組)、材料費1,500円 | 学習室 集合
し造形作家
飛河 道雄 |
| ○ 10月31日(土)『第8回ひろしま遊学の森
こども写生大会』
秋の緑化センターを描こう
※自由参加(審査対象は小学生以下)、無料、画材持参(画用紙以外)、チラシ参照 | 10:00～14:00 緑の相談所 集合
講師:元中国新聞社図画教室 指導審査員
横山 直江 |

中止になりました

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。

☆お知らせ・ご案内☆

- 秋のおでかけキャンペーン 10月3日(土)～11月15日(日)
 もみじ祭り 10月24日(土)～11月15日(日)
 インスタグラム フォトコンテスト2020(秋)
 応募期間 10月1日(木)～11月30日(月)

展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・つづらふじ手作りカゴ作品展 10月初旬～10月24日(土)
- (パネル展示)
- ・ボタニカルアート展 9月19日(土)～10月30日(金)

～ 森林公園 イベント情報 ～

- 10月25日(日)『森のハロウィーンパレード』
 &『ハロウィーンコスチュームをつくろう』

受付: 9:30～14:00(雨天中止)
 場所: 芝生広場
 対象: どなたでも
 定員: 先着100人に記念品あり
 参加費: 無料



「ボタニカルアート展」より